



6/17～18は1000分特講 長時間、自校のテスト範囲の問題に取り組みました。初めて参加の生徒も一生懸命に取り組んでいました。卒業生や生徒のお母さんたちから、たくさんの差し入れを頂きました。ありがとうございました！



6年の鈴木君、なんと徒競走1位、その証紙  
6年の湯峯さん、正確にね！  
いつも静かに勉強する、古川兄弟。高専1年のお姉さんも。  
テキストの〇付けをしてもう6年の田中さん、修学旅行のしおりを作成。すごい！



毎年見に行く中体連、今年は富中2年の菅原君の陸上と景中2年の藤井さんバドミントンでした(6/30現在では)



定期テストに向けて熱心に勉強する高校生、今年は1、2年生が特に一生懸命勉強しています。高校入試と違い大学入試はとにかく大変。高校の基礎学力をしっかり身につけましょう！  
高専5年の斗内君、豊橋技術科学大学の合格報告に！

道路地図や市街地図など民間の紙地図の販売実績の統計はないが、こちらもデジタル化によって苦戦を強いられるようだ。住宅地図最大手のゼンリンが今年、インターネット利用者を対象に実施した調査では、移動時に使う地図は「スマートフォン」が54.9%に押し、「冊子・紙の地図」は半分以下の24.2%。日本地図学会評議員で地図出版業界に詳しい斉藤忠光さんは「紙の地図出版をやめることを決めた大手出版社もあると聞く」と話す。

紙地図の売り上げは、世相も反映してきた。バブル経済のころは不動産需要からか、埼玉県原の「浦和」や東京都の「八王子」など首都圏が上位を独占。阪神淡路大震災が起きた後の95年度は「神戸戸部」がトップとなった。ただ、やはり山岳関連の人気が高く、北アルプスの「穂高岳」が1位の年が多い。昨年度もそうだったが、販売数は1921枚で、前年度の3353枚から4割減った。

流通面の問題も深刻だ。今年2月には、地図の大手取次業者だった日本地図共販が倒産。これを機に紙地図の扱いをやめる書店も出ている。地理院の主な紙地図は、縦46センチ横58センチの大判のため、広いスペースを必要とすることも、書店が敬遠する要因の一つという。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
夏期講座(9時~18時)							夏期講座(9時~18時)	夏期講座スタート(9時~18時)	夏期講座準備休み				海の日 休塾	休塾		★湖陵・北陽学校祭(16) ◎漢検実施		●附属3年宿研(14)			●休塾	★江南学校祭(10)			■遠矢中定期テスト		●休塾	○中体連卓球・バレーボール	

夏期講座の予定表は渡してあります！

★全学年、これからの本格的な勉強ですよ！  
中・高校生は、ほぼ定期テストや中体連、高体連が終わりました。  
定期テストの結果を見ると中学生も高校生も、しっかりと結果を出せている生徒がほとんどですが、中には学習の成果の出ている生徒がほとんどですが、という生徒には、目標もなくただ時間を費やしているだけ、やっているつもりになっているだけのように見えます。  
合計点が100点近く上がった生徒、学年順位が50番以上、上がった生徒。特に中学生で1000分特講で頑張った生徒に良い結果が目立ちます。  
中三生、高三生は7月以降は本格的な受験勉強が始まります。そして、夏休みは、まとまった時間を勉強に集中して使える絶好の機会です。中学一、二年生はテスト結果から1学期に習った範囲の苦手な

単元、教科を集中して学習できる夏期講座でしっかり取り組むことが大切です。夏「休み」は、学校が休みというだけで、勉強が休みなわけではありません。高校生は全学年、7月の初めに模試があります。その結果をもとに志望校に向けて戦略的に取り組んでいきましょう。  
★紙地図、売り上げ20分の1に  
スマホ猛威、取次も倒産  
国土地理院が発行する紙地図の販売数が低迷している。販売を受託している日本地図センターによると、2016年度の売り上げは約47万枚で、記録のある1946年度以降で最少。最盛期だった81年度の約910万枚と比べると約20分の1だ。紙地図は生き残ることができているのか。  
5月の連休中、長野県の北アルプスは大勢の登山者でにぎわっていた。しかし、上高地から涸沢(か

らさわ)まで約7時間をかけて歩いて、紙地図を見ていた登山者は民間の登山用地図「山と高原地図」を使っていた2人だけ。北穂高岳(3106メートル)に登っても、やはり地図を広げている登山者は一人もいなかった。  
かつて、地理院の紙地図は登山者にとって必携だった。しかし、大学の山岳部やワンダーフォーゲル部など組織化された登山者は減っており、複数で紙地図を見る場面は珍しくなっている。さらに、スマートフォンとの普及が紙地図の減少に追い打ちをかける。世界中の地図が見られ、GPS(全地球測位システム)機能で現在地も分かるためだ。  
紙地図の売り上げは、世相も反映してきた。バブル経済のころは不動産需要からか、埼玉県原の「浦和」や東京都の「八王子」など首都圏が上位を独占。阪神淡路大震災が起きた後の95年度は「神戸戸部」

★「漢検実施」と「夏期講座」  
7月14日、3年ぶりに塾で漢検を実施します。受験する生徒は授業でも漢検の勉強をしてきました。受験料が無駄にならないように合格に向けて頑張りましょう。  
そして23日からは夏期講座が始まります。中一、二生は3時間、中三は4時間が基本です。塾は朝9時から夜6時までですから、昼食を用意して3時間以上、4時間以上やってもかまいません。  
それともう一つ、夏休みの日中ですから、出来るだけ自力(自転車か徒歩)で通塾することです。過保護状態から脱却しなければ成績は向上しません。今もそういう生徒がいます。成績も大切ですが、それ以上に大切なのが自立心、独立心です。

7月の予定

## 高校生のネットいじめ、学力階層で異なる特徴—原清治仏教大学教授

仏教大学の原清治教授らの研究グループの調査で、高校生の約9%がネットいじめを経験していることが分かった。いじめは学力低位の高校だけでなく、高位の学校群でも起こっているが、その特徴は異なるという。

いじめの現代的な特質の1つに、周囲からの見えにくさが指摘される。その典型がネット環境（バーチャル空間）の中に展開される「ネットいじめ」である。

いじめ防止対策推進法は、いじめを「他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）で、対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義している。インターネットなどを使った心理的、物理的な影響を与える行為は、広義にネットいじめといえることができる。

ネットいじめには2つの種類がある。1つは「死ね」「消えろ」といった誹謗中傷を本人のブログやLINEなどに直接書き込む「直接型」であり、もう1つが、いわゆる学校裏サイトや不特定多数が閲覧できる掲示板、ツイッターなどにネタを書きこむ「間接型」である。

最近、拡散などの問題が指摘されるのは間接型で、ネット上へ写真や動画を投稿する「さらし」が深刻な問題を引き起こす事例もある。加害者は軽いノリで書き込むことが多いが、本人の同意がないまま情報が不特定多数の目にさらされることで、被害者は精神的な痛みを受ける。間接型ネットいじめは、中学・高校生にスマートフォンが普及した2000年代後半から子供たちのいじめの方法に組み込まれ、今では常態化している。

ネットいじめは、どの程度、発生しているのだろうか。私たちが15年に京都府と滋賀県の98高校・約6万6千人を対象に実施した調査では、高校生の8.7%が「ネットを介してイヤな思いをしたことがある」と回答した（高校入学後に限定すれば5.4%）。

その内訳は、「ツイッターによる誹謗中傷」(51.8%)や「LINEでの誹謗中傷」(39.7%)が中心で、かつて多かった「メールでの誹謗中傷」(18.4%)や「ブログ・プロフでの誹謗中傷」(19.0%)は減っている。「写真や動画」(9.7%)や「学校裏サイト」(3.9%)もあった。

こうした実態から、高校生のネットいじめの特徴を3点指摘したい。

1つめは、被害者に対する事実無根のうわさや個人情報、加害者に明確な悪意の自覚がないまま、笑いなどのネタとしてネット上にさらされてしまうことである。被害者は不特定多数に見られることで、周囲から孤立したり、好奇心視線で見られたりする苦痛がある。

最近では、いじめとの境界線があいまいな「いじり」が子供たちの粗野なコミュニケーションの一手段として顕著になってきたが、ネットでもそうした関係が蔓延し始めている。

2つめは、被害者の86.1%が「書き込みを誰が書いたか特定できた」と回答、匿名性が薄いことである。

ネットいじめの被害者と加害者の間には、一定の人間関係が存在するケースが多い。仲間内のコミュニケーションから被害者がネット空間に誘われ、それに同調しなければ仲間でないような圧力を感じる。あるいは、自分がネットいじめの対象とされることへの恐怖心から、集団に過度に同調してしまう。希薄な友人関係を基盤とした集団では、あるときは被害者であっても、集団に同調する意識から容易に加害者になり得る。

3つめは、現実世界でのいじめがネット空間にも転じやすいことである。リアルないじめ（「ひやかし、からかい、悪口」「仲間外れ、無視」「殴られる、金銭をたかられる」）を受けた経験のある生徒ほどネットいじめの被害に遭う割合が高い。両者の相関関係は強く、ネットいじめはリアルないじめと同一線上で発生している。

次に、学力とネットいじめとの関係を見てみよう。グラフは縦軸にネットいじめの発生率、横軸に学校の偏差値とし、98校をクロス集計した。

発生率が最も高いのは偏差値が最も低い学校群（(1)）だが、必ずしも偏差値に沿って右肩下がりにはない。偏差値66以上の学力高位群（(2)）でもネッ

トいじめは発生しやすく、偏差値51～55の学力中位群（(3)）の発生率も高い。全体ではWの波形になる。

その背景を分析すると、学力層によってネットいじめの特徴が異なっていることが分かる。

(1)の低位群は「直接型」が他より多い（既読無視をしたことがある＝(1)63.1%、(2)55.1%）。高位群の(2)では「笑い」を伴う「間接型」が起りやすい（ツイッターによる誹謗中傷＝(1)44.8%、(2)54.5%）。(3)の中位群は学力の分散が最も大きく、多様な価値観の葛藤があると考えられる。自分と考え方や価値観が異なる「異質な他者」が混在しやすい空間にはネットいじめが発生しやすい。

学力という切り口だけでも、学校ごとにネットいじめの特質がこれほど異なるということは、それぞれに見合う対策も異なるということだ。

例えば(3)の学力中位群には、人権の視点からみても、人間の多様性への理解やつながりへの寛容がもっとも高く求められるべきであろう。実際、その理解の上に立ち、大きな抑止成果をあげている学校もある。

「ネットのことはわからない」「ネットは子供の問題」とせずに、ネットいじめという新たな教育課題の実態の把握につとめ、それぞれの学校の実態に合わせた対策が求められている。

ポイント 新しい教育課題 正面から対応を

高校生が当たり前のようにスマートフォンを持ち歩き、交流サイト（SNS）を使いこなす時代には、ネット空間もいじめの舞台になる。大人には見えにくく、理解も難しい分野だけに、敬遠しがちなテーマだが、新しい教育課題として正面から向き合う必要がある。

子供たちや学校の置かれた環境によって、どのようなネットいじめが起きているのか、実態を正確に把握して、きめ細かな対応を進めることが必要だ。

**携帯、スマホによるいじめは問題だが、いじめには他にも様々な原因が考えられる。中高生にとっての一番の問題はそれらを持っている生徒の学力面だ。塾が見てきた限り、中学生ではほぼ100%持っていない子の方が成績が良いか、成績が向上する傾向にある。少なくとも特別な事情がない限り中学生には持たせないほうが良い。高校生はとにかく依存症にならないように使用時間、使用法に注意すること。**



## 北陽、工業20年度1学級減

### 公立高配置計画案3校復元、今後公表

道教委は6日、道内公立高校の2018年度から20年度まで3年間の配置計画案を発表した。

釧根では既に18年度に釧路江南の普通科を1学級削減し5学級とすることが明示されているのに続き、中卒者が120人減少する20年度に、釧路北陽普通科と釧路工業の工業科各1学級減が盛り込まれた。

このほか応募生徒減少のため1学級減の釧路学区の白糠普通科と標茶総合科、根室学区の羅臼普通科の18

年度復元については、生徒の進路動向を見極め計画決定時に公表する。

釧路学区の中学校卒業生推計では、減少ペースが20年度から加速する。22年度は23人増加するが23年度には学区で1800人を割り、24年度は137人減の1659人と予測。21～24年度までの4年間で5～6学級の調整が必要になるとして、釧路市内や周辺の町で学校や学科の在り方を含め、公立高校全体での再編整備や定員調整が必要になるとことが明示された。

釧・根 2018-20年度の 高校配置計画変更点

校名	学科	17年度学級数	18年度	19年度	20年度
釧路江南	普通	6	-1		
釧路北陽	普通	6			-1
釧路工業	工業	6			-1
白糠	普通	1			
標茶	総合	2	計画決定時に公表		
羅臼	普通	1			

学区内中学校卒業生・見込み者数

学区	区分	17年	18年	19年	20年
釧路	管内	2,058	2,009	1,992	1,872
	(市内)	1,516	1,459	1,438	1,359
根室	管内	807	718	735	740
	(市内)	252	204	201	209

注：市内は内数

根室学区でも減少ペースが加速する。18年度の中学卒業生は89人減り718人と800人を割る。22年度には83人減少し657人と予測、一時的には増加するが24年度には636人に。

21年度からの4年間で2～3学級の調整が必要として、名指しこそ避けてはいるが欠員が40人を超す（別海、中標津、中標津農業）高校の学科見直しや定員調整の必要性について言及した。17年度に1学級減となった羅臼普通科の18年度の募集は計画決定時に公表するとした。

道教委では道議会の論議を踏まえ、7月に地域別協議会を開いて地元の説明、9月上旬に適正配置を決定する予定。

（武田博） 釧路新聞 6/7